

街の活性化 ミツバチが協力



内藤さんが持つ巣枠にびっしりと集まったミツバチ

前橋市千代田町の複合施設「前橋テルサ」(12階建て)は、10階の中庭広場に養蜂箱を設置しミツバチを育て蜂蜜を作る「まえばしハニープロジェクト」を始めた。ミツバチを通じて子どもたちに環境問題を考えてもらう「ハチ育」を行うほか、採れた蜂蜜によるスイーツ作りなどで地域活性化に役立てる狙い。(市川勘太郎)

プロジェクトの主体は前橋テルサを管理する前橋市まちづくり公社。資金面で建設機械のレンタルやイベント企画などを手掛けるコーエイ(同市上小出町)が創業五十周年の社会貢献事業としてイベント収益の一部を寄付して協力する。



前橋テルサに800匹の養蜂箱設置

環境学習、スイーツ作りに活用



設置されたミツバチの巣箱=いずれも前橋市の前橋テルサで

ミツバチは環境汚染に対して敏感な環境指標生物とされ、近年は環境の変化に



前橋テルサ(旧名称・前橋勤労者総合福祉センター)にはホテル(二十二室)や多目的ホール、会議室、フィットネススタジオなどの施設がある。

趣味のFMぐんまパーソナリティの内藤聡さん(40)がミツバチを落ち着かせる煙を噴射した後、巣箱の出入り口を開けた。巣箱が開くと、ミツバチたちは周辺を確認しながら飛んでいった。ミツバチは半径約二キロの範囲で行動する習性があるため、中心市街地や前橋公園にある植物などから蜜を集めてくることが見込まれる。養蜂箱は職員らが世話をする。

伴い減少していて問題となつている。前橋テルサの小野里芳弘館長(金)は「野菜や植物の受粉などミツバチが果たす役割は大きい。前橋は自然が豊かで、人間とミツバチが共存できる町として地域活性化につなげたい」と話す。今後は親子でミツバチに触れ合うワークショップを開催するほか、採れた蜂蜜を前橋テルサのレストランで提供することなどを予定している。

【気者】(市)で1歳の雌(山)の形(旅)で群馬(にかわ)とエー(イト)ラ(たち)が(国内)で

岡山へ引っ越す

ホワイトタイガ

雌のサン6歳

の白変種。サンは埼玉県の東武動物公園で2013年3月に生まれ、約2年後に群馬サファリにやってきた。サファリの北村昭二動物部長によると、ちょっと臆病な性格という。北村部長は「動物園で生まれ育ったので、放し飼いで頭数も多いサファリの環境になじむのが大変だったのでは。池田動物園の方が活躍できると思う」と話す。池田動物園は新しい生活に慣れてから一般公開する予定。担当者は「岡山や近県の子どもたちに喜んで

病院で高齢者に交通安全を啓発

安中署など

安中署と安中市、市交通安全協会は、同市松井田町の松井田病院で高齢者を対象して共有し、故郷の新たな写真に

故郷の新たな写真に

市都市計画

年で十回目。

ここから、

一マに二十六

亡者が九十代

ことから、夜

